

外川港を築いた崎山治郎右衛門

絵と文・熱田親憲 題字・熱田泰華

紀伊・房総

くろしお物語

◇26◇

紀州人が銚子の地に代初期の1630年ごろ集団として旅籠する。当時の銚子は高崎うになったのは江戸時藩の所領地として確固

し、黒潮と親潮が交わ

たる地位を保ち、家康の肝煎りで行われた利根川の改修で江戸と下総・常陸との物流拠点となった。また、利根川からの有機質によりプランクトンが発生し、黒潮と親潮が交

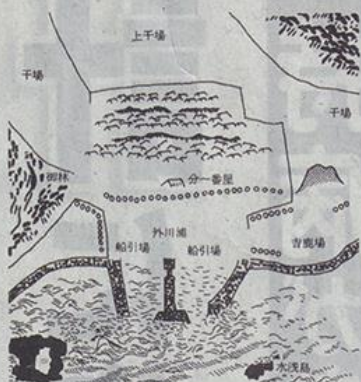
って銚子沖はイワシの大基地にしようとする10年を滑りやすくし、海岸も費やして情報と資金を蓄えた。彼は大工、土木工事の設計と施工指揮の役を買って出た「伊兵衛」園祭の山鉦巡行でも、角を曲がる時に青竹を

一方、紀州は秀吉の紀州征伐により荒れ果て、農家を継げない男たちは旅籠を目指していた。その中に、私財をなげうって銚子の外川に漁港を築き、その漁民と商人が住む町を築こうという偉人が現れた。その人が崎山治郎右衛門である。彼は八幡太郎(源義家)の流れをくむ士族であったが、紀州征伐に敗れて広村の農漁民となり漁業を営んでいた。あるとき海難に遭い、下総国海上郡飯沼村や高神村(両村とも現在の千葉県銚子市)の人々に助けられた。その恩返しから、銚子の地をイワシ漁業の一

恩返しにイワシ漁の町へ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。当時彼はキンメダイなどを釣る釣り船基地に変わっ

ており、何十隻もの小型船が係留され、みな元気がなかった。当時船引場だったところに砂岩できちっと固められ、た岸壁が一部残され、今でもロープ掛けに役買っていた。崎山治郎右衛門の事業の続きは次回をお楽しみに。



第4-4図 高神村外川浦の村落景観 「下総外川漁港場図」(静嘉堂文庫所蔵、一部、年代不詳)によりトレース